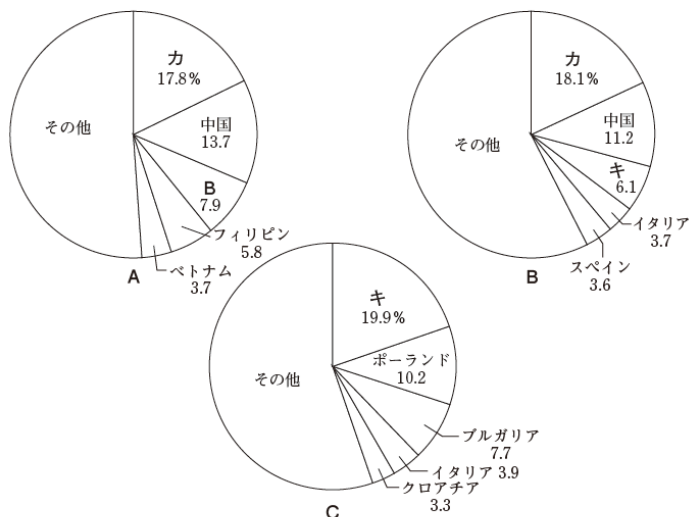


地理B

第3問 問2 「14」

ステップを踏んで考える資料読解問題で、各学力層で差がついた

問2 次の図1は、いくつかの国における外国人流入人口の出身国ごとの割合を示したものである。図1中のA～Cは、イギリス、オーストラリア、ドイツのいずれか、カとキはインドとルーマニアのいずれかである。イギリスとインドとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 14



統計年次はイギリスが2019年、オーストラリアとドイツが2020年。
『データブック オブ・ザ・ワールド 2023』により作成。

図 1

	①	②	③	④	⑤	⑥
イギリス	A	A	B	B	C	C
インド	カ	キ	カ	キ	カ	キ

2023年度第3回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試
「地理B」

受験者数: 81,549人
平均点: 53.3点
標準偏差: 15.4

第3問 問2 「14」

正解率	61.6%
SS70～75	95.5%
SS65～70	93.5%
SS60～65	87.6%
SS55～60	80.0%
SS50～55	69.9%
SS45～50	56.3%

地理 B

第3問 問2 「14」

ステップを踏んで考える資料読解問題で、各学力層で差がついた

結果分析

共通テストの資料読解問題で特徴的であったのは、「複数の資料を組み合わせで判断する」出題、「資料の凡例などの指標と、国名を組み合わせで判断する」出題です。資料中の国名や品目名をストレートに問う形式はほとんど出題されなくなりました。

本問では、地理的近接性や歴史的な背景を想起しながら資料を読み解く力を問うています。円グラフの内訳から地理的近接性や歴史的背景を想起し、論理的に結びつけることで、組合せを判断することができます。

このように、資料から「着眼点」を見つけ出し、ステップを踏んで考える力が求められており、この力が身についているかどうかで、正解率に差がつかしました。

指導のご提案

教科書を一通り終了し、問題演習を通して知識の定着・確認や、新しい設問形式への対策を進められている時期だと思えます。新しい設問形式への対策に時間がかかり、基礎知識の定着にかける時間が十分に取れていないということも伺っています。問題演習の解説では「解き方・考え方」が中心となるかと思えますが、その際には、背景となる知識（事実関係）を明確にし、その知識からどのように正解を導くのかという思考のつながりが大切です。

また、共通テストでは、細かい知識ではなく、世界を大観して傾向をとらえることが重視されています。自然環境と関連させて、産業や人口などの系統的な内容を確認するなど、断片的な知識をつなげる練習を重ねることが大切です。